

技術教育分科会用 ワード版スタイル

静岡大・教育 ○技術一郎（院生），産枝花子（学生），技宇術科太郎

1. イントロダクション

ここでは、ブリティッシュスタイルの論文の書き方を述べるが、各流派の手法に従って原稿を作成して頂いて結構である。イントロダクションでは、全体を通じてどういう問題を、どういう手法で明らかにするのかを述べる。論文の内容を詳細に説明する必要はないが、取り扱うテーマの問題点、解決手法、その手法の新規性、ならびに、有効性を明らかにする必要がある。

2. サーベイ

ここでは、これまでどういった手法がなされてきたのかを説明する。客観的に最近までの研究結果を紹介し、後述する提案手法との違いを明らかにするための伏線とする。

3. ディベロップメント

提案手法について述べる。できれば、従来手法と提案手法との例証の比較を行い、提案手法の有効性について述べるのが望ましい。

4. コンクルージョン

ここには、結論を書く。この部分では、上記本論で得られた結果を簡潔に述べる。また、提案手法の限界性・前提条件に言及し、今後の研究課題を提示する。通常、イギリス式の論文においては序論と結論を読んだだけで、その論文の内容が分かるようになっている必要がある。

[1] 技術太郎：技術分科会原稿の書き方，日本産業技術教育学会，？巻，？号，pp.???-??? (2009)



図1 図のサンプル

表1 技術分科会発表会

第50回	東京	2010年12月4日
第51回	名古屋	2009年12月12日
第52回	大阪	2008年
第53回	京都	2007年